

名古屋講演会 開会挨拶

愛知大学学長 川井 伸一
(2016年8月27日 名古屋市博物館)

ご来場の皆様、今日はお忙しい中ご参集いただき心より御礼を申し上げます。今年には愛知大学創立70周年にあたります。その記念事業の一環としてすでに8月24日より愛知大学東亜同文書院大学記念センターの主催で愛知大学記念館、所蔵コレクション展を開催しております。皆様もご覧いただいたかと思えます。それと並行しまして本日は特に講演会及び上映会を開催させていただきたいと思えます。本日のテーマはご覧の通りでございますけれども、特に私のほうから指摘させていただきたい点がございます。1945年まで中国の上海にありました東亜同文書院、後に大学になりますが、その45年間の歴史、そして終戦を迎え1946年に創立されました愛知大学のその後の70年間の歴史。これは限られた時間で全体を紹介するという事は困難なことではございますが、今回は特に以下の二点について注目していただければと思えます。第一点は、東亜同文書院から愛知大学への歴史的な継承という点でございます。東亜同文書院と愛知大学は言うまでもなく別の存在ではございますけれども、例えば愛知大学創立に直接関わった人々、それから愛知大学の掲げた教育理念、さらには海外高等教育機関の学生や教員たちの国内での受け皿の提供という点など様々な点で直接的な継承関係があったと考えられます。今日はその点もおそらくご紹介されるのではないかと思います。第二点は、今申し上げた教育理念に関わりますが、愛知大学、それから東亜同文書院ともに国際人養成というのを主要な教育目的の一つとしている点で似ているというか、同一なところがあります。近年、グローバル人材の養成等がとみに強調されておりますけれども、国際人の養成という意味ではすでに70年以上前、戦前におきまして東亜同文書院が追求していたところでございます。愛知大学の創立の時点におきましても、愛知大学の建学の精神として国際的視野と教養を持つ人材の育成というのを掲げてございます。それを総括的に言えば国際文化大学として愛知大学を創立するという意志もございました。その後の大学の歴史はその方向を一貫して追求し、一定の成果をあげてきております。いくつかの例を挙げれば中日大辞典の編纂や刊行、国際中国学研究センターの設立とその活動の展開。それから現代中国学部の設立と、最近で言えば同学部がグローバル人材育成推進事業、文科省の事業ですが、それに採択されているということ。さらには、今回主催者である東亜同文書院大学記念センターの私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、これも文科省の事業ですが、それに採択されています。おそらく今日はその成果の一部を報告されるのではないかと思います。本日の講演、上映会が皆様にとりまして東亜同文書院及び愛知大学に対する認識を新たにされ、有意義な会になりますことを心から期待して私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。